

武蔵野に神社を創建してみた。

小川 泰弘

1 COOL JAPAN FOREST 構想

令和2年6月30日、埼玉県所沢市東所沢に新しい神社が創建された。武蔵野坐令和神社（むさしのにますうるわしきやまとのみやしろ）という。構想から5年と少し、コロナ禍の状況下であり、2カ月ほど遅れての竣工であった。

発端は所沢市の所有する旧所沢浄化センター跡地を（株）KADOKAWA が購入したことからであった。土地の購入を希望した会社のうち、KADOKAWA の計画は他社よりも地域貢献度が高い評価を得るとともに、土地等買受希望価格についても高額であったため同社が優先交渉権を獲得、市との間で平成26年5月に基本協定書を締結、その後本契約を締結し、同年10月に所有権がKADOKAWA に移転した。

平成27年6月4日、所沢市とKADOKAWA は共同で「COOL JAPAN FOREST 構想」を発表。ゼネラルプロデューサーに所沢市長・藤本正人氏、KADOKAWA 会長・角川歴彦氏の二名が就任し、文化と自然が共生した、「住んでみたい」「誰もが訪れたい」地域づくりを進めると宣言した。

この構想の拠点となる旧浄化センター跡地を「ところざわサクラタウン」と名付け、KADOKAWA の出版物を取り扱う製造・物流施設と、文化コンプレックスを中心に、サービス機能（ショップ、カフェ、イベントスペースなど）を付加した集客性の高い施設の建設が計画された。そのうちの文化コンプレックスを角川文化振興財団が建築・事業運営を行うこととなり、図書館、美術館、博物館が融合した日本初とも言える施設、「角川武蔵野ミュージアム」が誕生することとなった。

2 神社建立

そのミュージアムと連携して＜神社＞が建立される計画が生まれた。KADOKAWA 会長・角川文化振興財団理事長、角川歴彦氏の発案である。

「角川会長から“ここまでの施設だと神社もいるだろう”とお話をいただき、それを聞いてハッとしました。文化というものは土地や宇宙と繋がっており、日本は文化と宇宙、文化と自然を神社で繋いで来た歴史があるのです」（隈研吾氏）

ところざわサクラタウンに建設することを計画された文化施設・角川武蔵野ミュージアム及び神社のデザイン監修を行った建築家・隈研吾氏の言葉である。

神社を建立するにあたり、宗教法人格を持たない邸内社であること前提として、施設内における目的を以下の通りとした。

「建立される神社はところざわサクラタウンで行われる事業の安全・繁栄を願い、各事業を有機的に結合させる役割を持ちながら、施設内において①＜祈りの場＞②＜憩いの場＞③＜賑わいの場＞としての機能を果たします。富士山を望む武蔵野台地の建設された“COOL JAPAN の聖地”にある＜祈りの場＞として、日常の喧騒から離れ、安らぎを感じる水と緑に満ちた＜憩いの場＞として、地域のコミュニティを活性化し、公共的機能を担う市民と来訪者のための＜賑わいの場＞として、所沢から新たな物語を創造・発信する起点となることを目的とします」

3 神社のコンセプト

“COOL JAPANの聖地”に建つ神社とはどんな神社であろうか。クールジャパンの具体的な代表例としては、海外で人気のある映画・音楽・漫画・アニメ・ドラマなどのポップカルチャーやゲームなどのサブカルチャーを指すことが多い。所沢市とKADOKAWAの連携による「COOL JAPAN FOREST構想」のなかには、所沢のさといもや狭山茶を始めとする地元農産物や歴史的な伝統農法、ひな人形や押絵羽子板などの工芸品を、クールジャパンの一分野として世界に発信するという計画もあるが、ところざわサクラタウンを拠点としてクールジャパンを考えた場合、KADOKAWAのコンテンツ部門より生み出されるアニメやコミック、ゲームなどを指して、クールジャパンと認識すべきであると考えられる。

株式会社KADOKAWAという会社の歴史を振り返るとき、創業から何度かの業態変化を経て現在に至っていることが分かる。1945年の創業期を書籍の時代、1976年の角川映画誕生以降を映画の時代、テレビ情報誌「ザテレビジョン」の創刊以降を雑誌の時代と位置づけ、1994年以降をインターネット、デジタルの時代とし、以後も変遷を続けていく。

そのなかでも近年は「アニメファースト」と言われ、コンテンツの中心であった書籍(小説)とならび、アニメが大きな位置を占めるようになった。特にKADOKAWA発刊のゲーム誌『コンプティーク』において2004年より連載された『らき☆すた』の成功事例については、今回の神社建立に大きな影響を与えていると考えられる。

4 アニメと神社

『らき☆すた』は2007年4月～9月にアニメ化され人気を呼び、舞台のモデルとされる埼玉県久喜市鷲宮町の鷲宮神社に、ファンを中心とした多数の若者が「聖地巡礼」と称し参拝に行き、絵馬に登場人物のイラストを描いて奉納したり、コスプレ姿で参拝する姿などが報道され話題となった。初詣の参拝者も2008年には埼玉県内で3位となる約30万人、2009年には同2位となる42万人に達し、「アニメの聖地」の名を不動のものとし、「アニメ神社」の代表格となった。

その他にも「アニメ神社」として、埼玉県秩父を舞台とした『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない』の秩父神社、『ガールズ&パンツァー』の大洗磯前神社、『君の名は。』の東京四ツ谷にある須賀神社などがある。

2016年にはKADOKAWAが中心となり一般社団法人アニメツーリズム協会が設立された。

同協会は2018年より「訪れてみたい日本のアニメ聖地88」を選定、オフィシャル化することで国内外に積極的な情報発信を行い、また地域や企業、権利者、アニメファンの橋渡しとなってアニメ作品の世界観やキャラクターを公式に活用した商品、サービス、イベントの創出を促進し、さらなるインバウンドの増大や地域創生に貢献することを目指している。アニメ聖地88のうち「0番札所」を日本の空の玄関・成田空港とし、アニメグッズショップや、アニメ作品とのコラボメニューを提供するレストランなど、アニメの魅力に思う存分触れることができる「成田アニメデッキ」の一角にインフォメーションスポットを開設、国内外のファンに向けて情報発信を行っている。

また「88番札所」として東京都庁第一本庁舎1階の「東京観光情報センター」にアニメ聖地スポットを設置。パンフレットを始め、全国の観光情報を入手できるようになっている。

ミュージアム・イベント・ホテル・レストラン・書店・オフィス、そして神社。あらゆる文化をひとつにしたクールジャパンの拠点である「ところざわサクラタウン」を1番札所として、神社の授与所内にインフォメーションスポットを設置。情報の発信と神社では旅の安全祈願が行えることとした。

武蔵野に神社を創建してみた。(小川)

以上のように今回の神社建立にあたり、『らき☆すた』を嚆矢とする「アニメの聖地」「ファンの聖地巡礼」という要素が大きな影響を及ぼしたといえる。

5 武蔵野坐令和神社

アニメの要素を深く取り込みながら、具体的な神社の事業活動を組み立ていくにあたり、以下の項目を見据えながら、計画を進めた。

①土地（場所）と神社

産土神社、地縁による共同体意識。地域コミュニティを活性化する祈りの公共空間としての機能。

②企業と神社

商売繁盛・社運隆昌、安全を願い、崇敬の念を込めて企業が神社を建立。

③アニメと神社

神社がアニメの舞台となり、「聖地化」することで町おこしにつなげるケースが増加。

④アートと神社

杉本博司、スプツニ子！といった現代美術のアーティストによる神社・神道をテーマとした作品。

⑤イベントと神社

年間を通しての祭典行事に関連してイベントを開催（節分、献茶、七夕など）。

以上、五つの要素を取り込みながら、COOL JAPANの聖地に建つKADOKAWAらしい神社の在り方を模索した。地域の人々と社員に愛され、アニメ・コミックそしてアートの要素を取り込み、モノからコトへの「コトビジネス」とも連携したイベントの舞台ともなる神社を目指して。

そして、令和2年・2020年6月30日に神社は竣工。7月25日には鎮座祭が斎行されところざわサクラタウン内に新しい神社が誕生した。事業スキームとしては株式会社KADOKAWAが建設した建物（神社）を公益財団法人角川文化振興財団が借り受け、文化事業として神社の運営を行うというものとなった。

【御由緒】

主祭神である天照大御神はKADOKAWAが創業者の時代から崇敬している東京大神宮からご分霊いただいた。また当地の産土神社である本郷氷川神社に鎮座される素戔鳴命を合わせてお祀りさせていただいている。

飯田橋に本社のあるKADOKAWAが所沢に拠点を持つにあたり、創業者の時代から崇敬している神社の神様を勧請するとともに、その土地に鎮座している神様を合わせてお祀りする。『古事記』『日本書記』などの神話に登場する「天津神」と「国津神」の関係性にも似た御祭神の構成となった。

以下、御祭神・御神徳の説明となる。

【御祭神】

主祭神：天照大御神

相殿神：素戔鳴命

鎮座される二柱の御祭神を総称して「言霊大神（ことだまのおおかみ）」と申し上げる。

「言霊大神」とは、文芸・芸術・芸能といったコンテンツの表現に顕れる神の御威威（みいつ：神の威光）のことである。詩歌や小説、音楽や絵画、映画や舞台、アニメ・コミック・ゲームなど、やまとの国＝日本で誕生するハイカルチャーからポップカルチャーまで、学術（アカデミック）から娯楽（エンタテインメント）まで、すべてのコンテンツに宿る神威を尊称して「言霊大神」とその御名を申し上げる。

「この武蔵野の地に、出雲の神スサノオと、伊勢の神アマテラスをおまねきした時、これを寿ぎ、鳳と鳳の霊鳥が天より飛来してこの地で舞い踊った。この鳳凰を守りとなし、癒しの神、産びの神、コンテンツの神々を合わせ、それを言霊の大神としてこの令和神社におまつりもうしあげることは、まことにまことに意義深いことなのである」

夢枕 獺 「武蔵野坐令和神社 縁起の話(こと)」『武蔵野樹林 vol4 2020夏』より

【御神徳】

文芸・芸術・芸能などのコンテンツは、人が神に対して奉納するものであるとともに、人が神から授かるものでもある。コンテンツは神と人を結ぶ双方向のメディアであるという考え方から、アーティストやクリエイター、コンテンツ関係者を応援する御利益、コンテンツの持つ聖なる力によって人々の心を癒す御神徳がある。

また良縁祈願を始め人と人、人と場所、人とモノ、人とコトなど、さまざまなご縁を結ぶ縁結びの御利益。アニメ聖地88ヶ所の一番札所、ゲートウェイとしての機能を担うことから、聖地巡礼に向かうツーリストに対する旅行安全の御利益がある。

神社名については、土地の名である所沢、武蔵野、KADOKAWAのシンボルマークである鳳凰、朱雀などから、武蔵野鳳凰神社、武蔵野朱雀神社などの候補が上がったが、角川文化振興財団理事であり、KADOKAWAと古くからご縁のある国文学者・中西進氏に命名していただくことになった。

【神社名について】

正式名称「武蔵野坐令和神社(むさしのにます うるわしき やまとの みやしる)」

通称「武蔵野令和神社(むさしのれいわじんじゃ)」

「<令和>とは“うるわしき大和”“麗しい日本”のことです。「令」は「令嬢・令息」と使われるように、形が整って美しいさまを表します。自らを律して気高く生きる、その精神性が持つ気品ある端正な美。これが私の感じる「令」の語感であり、うるわしいという日本語に最も近いと思っています」(中西進氏)。

<令和>とは「うるわしき大和」「麗しい日本」のことであり、まさに「クールジャパン」を意味する。うるわしく輝く日本の文化が、永久に継続発展していくことを願い、COOL JAPANの聖地の建つ神社にふさわしい名を命名していただくこととなった。

また中西氏には2019年10月に行われた「ところざわサクラタウン」の事業発表会において、ビデオレターにてご出演いただくことになった。そのなかで古今集に収録されている「紫の一本ゆゑに武蔵野の草はみながらあはれとぞ見る(巻17八六七)」(ムラサキ草が一本あるだけで、武蔵野の草にはみんな心が惹かれますね)という詠み人知らずの歌を引き、“この一本のムラサキ草に喩えられるのが知と美の殿堂である角川武蔵野ミュージアムである。そして事業を行うにあたり大切なことは神の許しを得ることであり、この地に<うるわしき大和の神>をお招きした”という言葉をいただいた。

建築について、以下2020年8月に角川武蔵野ミュージアムにおいて、プレオープン企画として行われた<隈研吾/大地とつながるアート空間の誕生—石と木の超建築>から神社についての説明である

【建築】

「神社に降りたアニマ(魂)は赤い鳥居の連続体によってミュージアムへと招かれていきます。神社とミュージアムはふたつでひとつのもの」(隈研吾氏)

「隈研吾氏がデザイン監修を担当した同神社は伝統的な神社の建築様式を踏襲しながら、鳥居や千木といった神道の象徴的な施設や部材を現代の建築素材であるメタル(金属)で構築するなど、アルカイッ

武蔵野に神社を創建してみた。(小川)

ク(古代的)とモダン(現代的)が融合した、「令和」という新しい時代にふさわしい神社の建築を実現しています。男性神を象徴する外削、女性神を象徴する内削が交差した二本の千木は、人々の祈りを神に届けるかのように、あるいは神からの啓示を受信するかのように、天空に向かい静かに屹立しています。五穀豊穡や子孫の繁栄、自然災害・疫病除けなど、私たち日本人は神への真摯な祈りとともに生きて来ました。神社は古代から共同体の結節点であり、祈りの公共空間としての役割を今日まで果たして来たのです」(武蔵野坐令和神社 宮司 小川泰弘)

天井画の作成には何名かのアーティストが候補に上がったが、アートとアニメの要素を持ち、ゲーム「ファイナルファンタジー」のキャラクターデザインで世界的にも人気のある天野喜孝氏が、クールジャパンという視点から、選定された。

【天井画】

拝殿の天井画を描いたアーティストの天野喜孝氏は「かつて観たシスティーナ礼拝堂の〈天地創造〉や大徳寺本坊にある狩野探幽〈雲龍図〉に衝撃を受けて以来、天井画の制作は私にとって長年の夢でした。作画にあたり、参拝者の心がひろびろとするような絵画空間を創造したい、そして、過去からではなく未来から飛来した鳳凰をテーマに描こうと思いました」と語った。

角川のシンボルである鳳凰。一説では、鳳が雄、凰が雌と言われており、今回の天井画では神社の御神徳のひとつとして縁結びの御利益があるということから、雌雄一対の鳳凰が描かれることとなった。白を基調とし、気品と温もりに満ちた光射すシンメトリーな空間。その拝殿の天井に宿った雌雄一対の霊鳥は、この地で行われる事業の行く末を寿ぎ、神楽を舞うように参詣者を迎える。

【ニホンオオカミの神使像(狛犬)】

神使像(狛犬)はニホンオオカミをモチーフとしたもので、麒麟やユニコーンなどの幻獣を多く作成している彫刻家の土屋仁応氏に依頼をした。土屋氏の作品は、寓話から生れ出たような柔らかな質感と、静謐な存在感が特徴であり、書籍の装丁などにも多数使用されている。

万葉の時代から大口の真神と呼ばれてきたニホンオオカミ。明治38年を最後に絶滅したとされているが、近年でも秩父や大分県の祖母山系で目撃され、写真に撮られている。日本の文化、習俗、神道にも関わりを持ち、多くの神社で神または神使(眷属)として、祀られてきた。

秩父の三峯神社・青梅の武蔵御嶽神社を中心にオオカミ信仰は旧武蔵国全域に広がっている。山中で道に迷ったヤマトタケルノミコトを導き、窮地を救った白き狼(『日本書記』)。神を守護する存在として、道に迷う人々を導く存在として、武蔵野の地に建つ神社神殿の側に鎮座している。

【雅楽・神楽舞】

武蔵野坐令和神社では東儀秀樹氏作曲によるオリジナルの雅楽、振付による神楽舞が神前に奉納される。伝統を踏まえながら、新しい「令和」の時代にふさわしい芸能が誕生した。奈良時代から今日まで1300年間雅楽を世襲して来た楽家である背景を持ちながら、ロック、クラシック、ジャズ等あらゆるジャンルの音楽も素養を持ち、独自の創作にも情熱を傾ける東儀氏ならではの楽曲となった。

6 コロナ禍に誕生した神社

令和2年7月25日、鎮座祭が斎行された。武蔵野坐令和神社の誕生である。

翌26日午前11時、鎮座奉祝祭が斎行。前日から激しく降り続いていた雨が御祭事の始まる直前に止み、雲間から光が差し込む。

「御祭神は天照大御神様だから・・・」お祭りにご奉仕した巫女の一人が、空を見上げながら呟いた。

隈研吾氏が自身の代表作になるであろう、という「角川武蔵野ミュージアム」。異彩を放つ岩の塊の建築、まるで日本神話に登場する「天の岩戸」を彷彿とさせるようなミュージアムの背景に、青い空が広がり白い雲が流れて行く。

太陽神である天照大御神が隠れ、闇の世界となった〈天の岩戸神話〉。光が失われたその世界は、コロナ禍による不安で、混迷を極める現代社会そのものなのかもしれない。中西進氏、隈研吾氏、天野喜孝氏など、現代のシャーマンともいべきクリエイターたちの「祈り」が込められた「武蔵野坐令和神社」。その存在は来るべき祝祭=アフターコロナに向けて、人々の心を癒し、失われた光を再生する力を持つものと信じてやまない。